

ケアハウスにおける居住者の住みこなし方と生活展開に関する事例研究

石井研究室 佐々木健太
齋藤 智幸

キーワード：ケアハウス，住みこなし方，居室，生活展開

1 研究の背景と目的

ケアハウスは、個室を基本とした家庭的な生活空間の中で、高齢者が快適で安心した自立生活を送れるように位置づけられている施設(ケア付の住宅)である。入居者は一定のプライバシーが確保された空間で自立した生活を営むことができるようになっている。

本研究では、ケアハウスにおける居住者の住みこなし方と生活展開に関する事例調査から、高齢者の施設での暮らしの特徴を明らかにし、高齢者施設における居住空間のあり方を考察することを目的とする。

2 調査方法

調査対象者は、ケアハウス(Mハウス)に入居している6名である。計13回(1人あたり約2時間×3～4日)にわたって、インタビュー調査・アンケート調査・居室の記録調査を行った。

3 調査対象施設の概要

Mハウスは2000年に開設した定員30名の全室個室型のケアハウスで、自立生活が可能な高齢者が入居している。食事は3食提供され食堂でとる。22m²ほどの広さの各個室には、簡易キッチン・ユニットバス・トイレが備え付けられている。施設にはデイサービス・ショートステイ等の併設施設があり、地域における福祉施設としての役割も担っている。

4 調査結果と考察

4.1 ケアハウスにおける生活展開

入居者の属性と施設での生活の特徴を示したものが<表1>である。食事の時間は施設で決まっており、多くの入居者が食堂(自室でも可)で食事を取り、居室に戻って個人の自由な時間を過ごしている。

Bは、「今後の老後生活を考えて」が入居理由であり、Fは、「一人での生活への不安」が入居理由である。入居者によって入居理由はそれぞれ違ったものであり、抱えていた不安も異なることが伺える。

日々の生活についてみると、比較的年齢の若いBは、外部への交流が活発で趣味のスポーツをするために毎日施設の外に出かけており、施設の外に出て活動する機会が多い。Cは隣人に得意な手料理を振舞ったり、居室で趣味の編み物をしたりしていることが多く、居室前の屋上で花や野菜を育てている。入居者それぞれに特徴的な日々の過ごし方が見受けられた。

Aは、「寝起きや食事などの時間が入居前と変わっ

た」と感じており、Fは「周囲の入居者に気を使うようになってTVの音や話し声に敏感になった」と感じている。入居者によって感じている変化とその程度は違うが、何らかの変化が生活に生じたと感じていることがわかる。

入居者の多くが「食事は出るし、一人ではないので安心できる」といった考えを持っており、ケアハウスでの生活に対する不満は少ないことも感じ取れた。

ケアハウスにおいて、入居者は、個人の考え方・意識の違い・生活スタイルの違いといったものをかかえながら生活しており、それぞれの生活は個性的なものであるといえよう。

4.2 居室の住みこなし方

居室は以前の住まいの状態が反映されており、自分の住みやすい空間にするために工夫している<図1>。ケアハウス以外に自宅があるかないかでも持ち込み物には違いが見られる。自宅が残っているBさんF

表1 入居者の属性と施設での生活の特徴

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
性別	女性	男性	女性	女性	女性	女性
年齢	89歳	67歳	81歳	82歳	79歳	75歳
職業	公務員	営業	製造業	自営業	営業	公務員
入居年月	2000年4月	2004年3月	2002年2月	2000年4月	2000年4月	2003年8月
入居以前の生活	友人と3人暮らし	夫婦二人暮らし	一人暮らし	夫婦二人暮らし	一人暮らし	一人暮らし
入居理由	1人の不安 体力の低下	老後の設計	1人の不安 体力の低下 食事の心配	1人の不安 体力の低下 老後の設計	食事の心配 老後の設計	1人の不安 食事の心配 老後の設計
楽しみ	趣味	〇	〇	〇	〇	〇
	サークル	〇	〇	〇	〇	〇
	行事	〇	〇	〇	〇	〇
	食事	〇	〇	〇	〇	〇
	入浴	〇	〇	〇	〇	〇
	同らん	〇	〇	〇	〇	〇
生活行為の頻度	ラジオ・TV	〇	〇	〇	〇	〇
	週6～7	水撒き 新聞 TV 談話 お茶	新聞 TV ラジオ 散歩 談話 お茶	新聞 TV ラジオ	掃除 新聞 TV 談話 読書	洗濯 新聞 TV 電話 お茶 書き物 運動
	週3～5	編み物 運動	洗濯 料理	編み物 料理	散歩 談話 お茶	なし
	週1～2	掃除 洗濯 買い物 散歩 読書 外出	掃除 洗濯 買い物 書き物 歌	掃除 洗濯 買い物 読書 歌	洗濯 買い物 ラジオ 散歩 歌 外出 喫茶	掃除 買い物 歌 外出
施設内空間の利用頻度	週6～7	食堂 廊下 浴場 居室	食堂 廊下 浴場 居室 施設外	食堂 廊下 浴場 居室 施設外	食堂 居室	廊下 食堂 屋上 浴場 居室 施設外
	週3～5	パレコニ 施設外	湯上談話工房 洗濯室	湯上談話工房	施設外	なし
	週1～2	談話スペース	談話ロビー 談話スペース	談話ロビー 洗濯室	談話ロビー 喫茶ロビー 施設外	談話ロビー 喫茶ロビー
	起床・就寝時間	〇	〇	〇	〇	〇
生活変化	夕食が早い	〇	〇	〇	〇	〇
	入浴時間	〇	〇	〇	〇	〇
	居室がきれい	〇	〇	〇	〇	〇
	周囲に気を使う	〇	〇	〇	〇	〇
	外出が減った	〇	〇	〇	〇	〇
	交友範囲の狭まり	〇	〇	〇	〇	〇
生活満足度	やや満足	やや満足	やや満足	満足	普通	満足
趣味	山歩き 絵手紙 絵	スポーツ (サークル) キャンプ 料理 囲碁	編み物 料理	書き物 食べ物	読書 博物館見学 神社仏閣見学 絵画鑑賞 演劇鑑賞	生け花 旅行 サークル
サークル	絵 絵手紙	なし	絵手紙 絵 歌 押し花	絵手紙 絵 歌 押し花	歌 喫茶	絵手紙 歌
補足	なし	自宅有	なし	廊下不自由	なし	自宅有

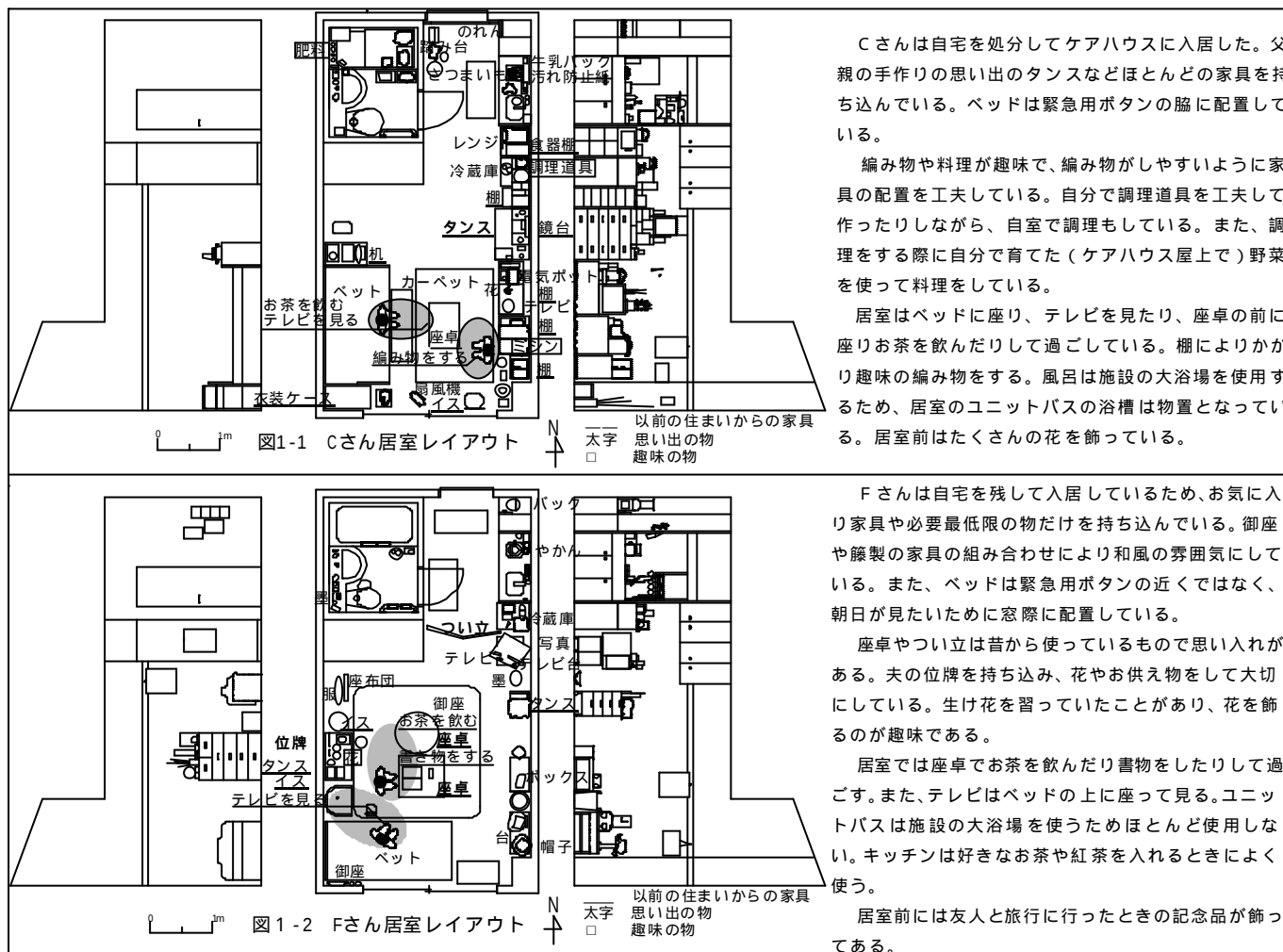


図1 居室のレイアウトの事例

さんは必要最低限の物だけを持ち込み、残りは自宅に置いてきている。他の4人は自宅を処分して入居したため、基本的には以前使っていた物をほとんど持ち込んでいるが、居室の広さに合わない家具は友人に譲るなどして処分した物もある。居室にあわせて入居の際に家具を購入した人もいる。また、限られた空間、設備のため、室内における家具のレイアウトはある程度決まってしまうものの、個人の意識の違いにより家具の配置に個性がでていることがわかる。

居室には趣味や思い出のある物を持ち込んでおり、身の回りを形成する小物にも個性が見られる。Cさんは料理や編み物が好きのため、それに関わる物が置かれている。Fさんは花が好きで居室に花を飾っている。また、家族がいた人は家族の写真や夫の位牌などを居室に持ち込み大切にしている。

居室での生活行為の場は2パターン見られた。Aさん、Bさんは寝るとき以外ベッドは使わない生活をしている。他の4人はベッドと座卓を使って普段の生活をしている。居室での生活行為は、自宅で普段する行為と同じで、自分の趣味をしたりテレビをみたりお茶を飲んだりしている。居室のキッチンは、趣味や料理の好き嫌いによって、利用のされ方は様々である。ま

た、Eさん以外は施設の大浴場を使っており、居室の浴槽を使う人は少ない。Cさんの様に居室の浴槽を物置代わりに使っている人もいる。

来客がある際には、親戚や家族の場合は居室で会うが、それ以外の場合は、施設の和室で対応するなど人それぞれである。仲のいい仲間でも居室には訪問しない（入れない）など、集団生活の場であることで、他の入居者との人間関係を気にしながら生活している様子もうかがわれた。

居室前のしつらえは、人形や花、好きな物や記念品などで飾り、自己を表出する場として使われている。

5 まとめ

ケアハウスでの生活は、個人の生活が基本であり、6人の個性的な生活展開が見れた。居室においても各人個性的な住みこなし方をしているが、居室の面積、形態から結果的に持ち込み家具が制約されたり、相互の居室訪問の自粛や生活音への気配りなど、集団生活の場であることの影響も受けている。今回の調査では、個性豊かな生活や、それを支えている環境の実態が明らかにできた一方で、自宅の延長線上にある居住の場として、その質をいかに高めて行くのか、今後検討しなければならない課題も明らかになった。